

スーパーマーケット販売統計調査資料

2015年9月実績 速報版(パネル275)

8月実績 確報版

(10月21日公表)

調査資料概要

【パネル集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2015年4月実績よりパネル対象企業変更(285社→275社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2015年10月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2015年9月実績 速報版 (パネル275)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	84,124,224	100.0%	104.3%	102.3%
食品合計	75,411,693	89.6%	104.7%	102.5%
生鮮3部門合計	29,120,196	34.6%	105.4%	103.1%
青果	12,357,809	14.7%	106.1%	103.9%
水産	7,428,032	8.8%	104.0%	101.6%
畜産	9,334,355	11.1%	105.7%	103.3%
惣菜	8,257,834	9.8%	106.3%	103.6%
日配	16,186,489	19.2%	104.1%	102.0%
一般食品	21,847,174	26.0%	103.7%	101.8%
非食品	6,250,597	7.4%	101.3%	100.5%
その他	2,461,980	2.9%	100.0%	100.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,989,716	49	103.6%	101.6%
関東地方	30,131,488	70	104.7%	102.7%
中部地方	10,077,469	58	104.6%	102.3%
近畿地方	17,505,791	34	103.0%	101.6%
中国・四国地方	8,355,745	36	106.7%	102.9%
九州・沖縄地方	5,064,016	28	104.2%	103.5%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	930,717	57	100.1%	101.3%
4~10店舗	3,626,446	67	102.6%	101.6%
11~25店舗	9,716,127	64	103.4%	101.3%
26~50店舗	15,238,325	45	104.0%	102.1%
51店舗以上	54,612,609	42	104.7%	102.6%

集計企業数 (社)	275	既存店総売上高 (万円)	81,428,558
総店舗数 (店舗)	7,434	店舗平均月商 (万円)	11,316
総売場面積 (㎡)	12,680,093	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.6

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2015年10月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2015年8月実績 確報版 (パネル275)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	91,584,628	100.0%	104.1%	101.8%
食品合計	81,340,088	88.8%	104.5%	102.1%
生鮮3部門合計	30,500,974	33.3%	105.5%	102.8%
青果	12,826,067	14.0%	108.0%	105.6%
水産	8,014,342	8.8%	103.2%	100.6%
畜産	9,660,566	10.5%	104.1%	101.2%
惣菜	9,349,645	10.2%	106.7%	103.8%
日配	16,951,353	18.5%	104.1%	101.8%
一般食品	24,538,116	26.8%	102.9%	100.8%
非食品	7,314,601	8.0%	101.3%	100.2%
その他	2,929,981	3.2%	99.9%	99.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	15,086,148	49	103.5%	101.4%
関東地方	31,536,639	70	104.4%	102.0%
中部地方	11,175,449	58	103.4%	100.8%
近畿地方	18,793,654	34	103.8%	101.7%
中国・四国地方	9,277,919	36	105.8%	102.2%
九州・沖縄地方	5,714,818	28	104.4%	103.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	1,033,745	57	98.7%	99.8%
4~10店舗	3,994,647	67	103.1%	101.7%
11~25店舗	10,802,186	64	103.2%	101.1%
26~50店舗	16,903,522	45	103.8%	101.7%
51店舗以上	58,850,527	42	104.6%	102.1%

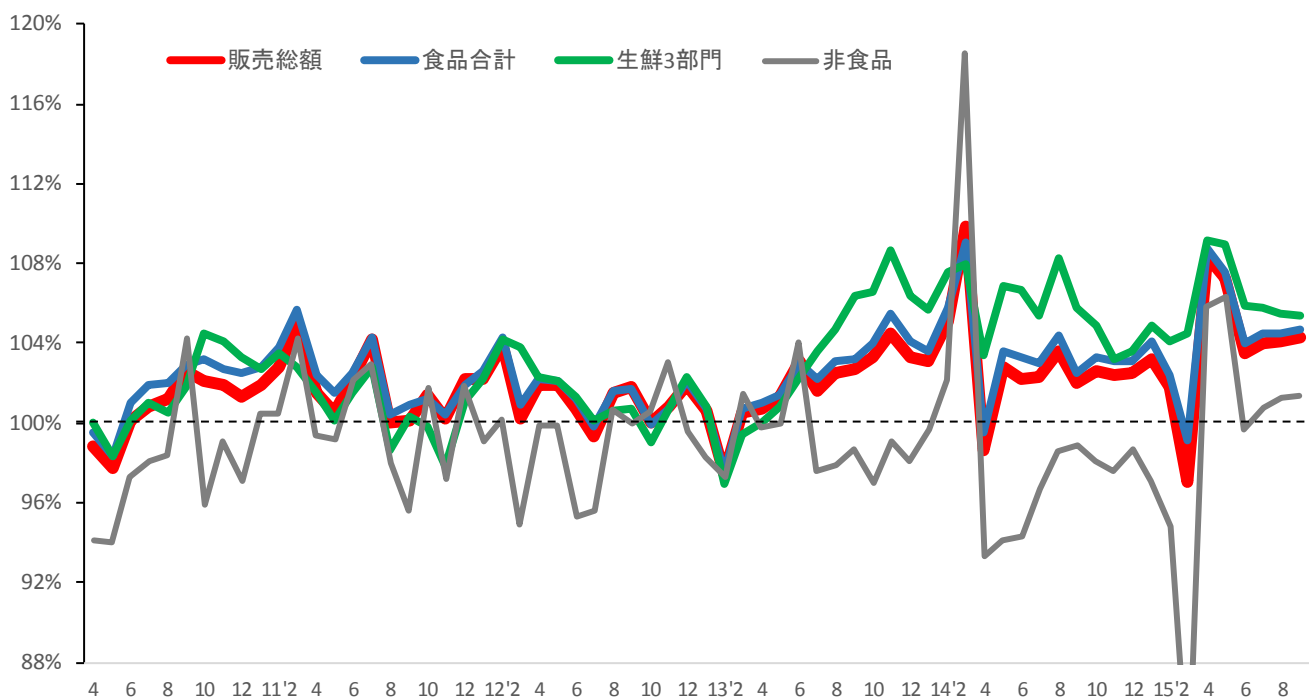
集計企業数 (社)	275	既存店総売上高 (万円)	88,714,069
総店舗数 (店舗)	7,435	店舗平均月商 (万円)	12,318
総売場面積 (㎡)	12,687,598	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.2

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2015年9月(全店ベース対前年同月比)

販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品

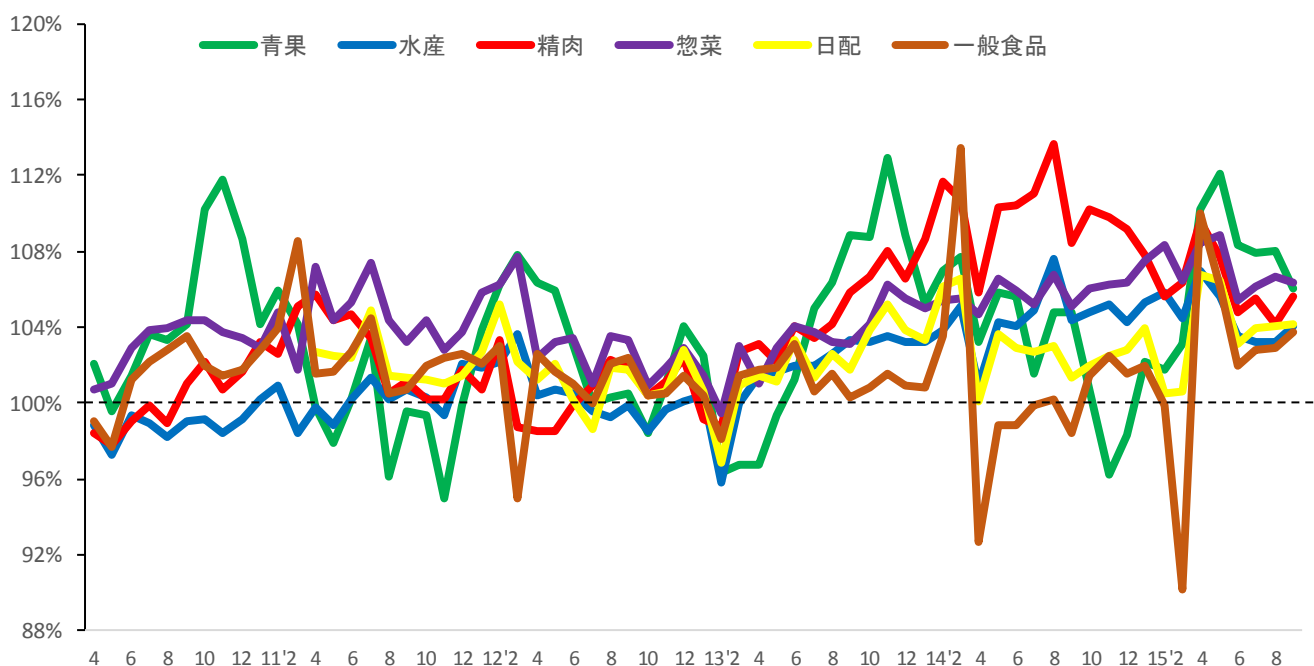


※2010年4月～2015年8月までは確報版による前年同月比、2015年9月は速報版による前年同月比

※2011年3月までは、「非食品」に「その他」を含む

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2015年9月(全店ベース対前年同月比)

青果・水産・畜産・惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2015年8月までは確報版による前年同月比、2015年9月は速報版による前年同月比

※2011年3月までは、「一般食品」に「日配」を含む

2015年9月エリア別気候状況

1. 平均気温：東・西日本で低かった

東・西日本では、上旬は前線や低気圧による寡照の影響で、中旬は西日本を中心に大陸から冷涼な空気が流れ込んだ影響を受けて、月平均気温は低かった。西日本では上・中旬はかなりの低温となった。

2014年9月との比較：上旬は全国的にやや低く、中旬は、北日本でやや高く、下旬はほぼ前年並みの気温となった

	平年との比較(°C)						今年と前年との差(°C)		
	2015年9月			2014年9月(前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	-0.5	-0.1	1.1	0.6	-1.5	0.5	-1.1	1.4	0.6
東北地方	-0.9	-0.6	0.5	-0.4	-1.6	0.3	-0.5	1.0	0.2
関東甲信地方	-1.1	-0.7	0.3	-1.5	-1.8	0.5	0.4	1.1	-0.2
北陸地方	-1.7	-1.9	-0.1	-0.2	-1.8	0.4	-1.5	-0.1	-0.5
東海地方	-1.5	-1.4	0.2	-1.3	-1.7	0.5	-0.2	0.3	-0.3
近畿地方	-2.4	-2.1	0.2	-1.0	-2.1	0.6	-1.4	0.0	-0.4
中国地方	-2.2	-2.3	0.4	-0.7	-1.7	0.6	-1.5	-0.6	-0.2
四国地方	-1.9	-1.9	0.4	-0.7	-1.8	0.7	-1.2	-0.1	-0.3
九州北部	-2.0	-2.2	0.9	-0.5	-1.4	0.6	-1.5	-0.8	0.3
九州南部・奄美地方	-1.2	-1.6	0.6	-0.1	-1.7	0.4	-1.1	0.1	0.2

平年差

+2°C以上	-2°C以上
+1°C以上	-1°C以上

前年差

+2°C以上	-2°C以上
+1°C以上	-1°C以上

2. 日照時間：北・東日本日本海側では日照時間は少なかった

上旬は東北地方から西日本にかけて、前線や低気圧などの影響で、日照時間がかなり少なく、月間日照時間は、北・東日本日本海側で少なかった。

2014年9月との比較：上旬、下旬は全国的に前年よりかなり少ない日照時間となった

	日照時間 平年比(%)						今年と前年との差(%)		
	2015年9月			2014年9月(前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	96	93	105	115	96	126	-19	-3	-21
東北地方	49	115	140	117	154	161	-68	-39	-21
関東甲信地方	50	114	137	77	124	202	-27	-10	-65
北陸地方	36	100	138	117	147	163	-81	-47	-25
東海地方	57	127	119	83	120	178	-26	7	-59
近畿地方	43	127	134	81	116	172	-38	11	-38
中国地方	46	126	129	97	114	144	-51	12	-15
四国地方	52	127	108	81	90	134	-29	37	-26
九州北部	67	113	104	85	90	98	-18	23	6
九州南部・奄美地方	92	115	66	85	73	97	7	42	-31

平年差

平年比150%以上	平年比50%以下
平年比125%~149%	平年比51%~75%

前年差

+50%以上	-50%以下
+25~49%	-25~-49%

3. 降水量：「平成27年9月関東・東北豪雨」が発生

9日から11日にかけては、台風第17・18号の影響で南から湿った空気が長時間にわたって流れ込んだため、北・東日本太平洋側を中心に記録的な大雨となった(平成27年9月関東・東北豪雨)。東日本太平洋側では上旬の降水量が平年比418%で、1961年の統計開始以来9月上旬として最多の記録を更新した。月降水量は東日本太平洋側でかなり多く、北日本太平洋側で多くなった。

2014年9月との比較：上旬は、全国的に前年に比べてかなり多い降水量となり、中旬は北海道と九州南部を除いてやや多く、下旬は四国で多かった。

	降水量 平年比(%)						今年と前年との差(%)		
	2015年9月			2014年9月(前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	139	114	79	90	139	42	49	-25	37
東北地方	229	138	33	54	57	64	175	81	-31
関東甲信地方	385	83	56	128	18	16	257	65	40
北陸地方	201	50	53	58	20	77	143	30	-24
東海地方	465	73	44	108	12	77	357	61	-33
近畿地方	315	38	51	105	19	53	210	19	-2
中国地方	241	46	40	65	2	44	176	44	-4
四国地方	195	51	90	155	9	16	40	42	74
九州北部	126	45	82	117	36	43	9	9	39
九州南部・奄美地方	163	18	87	110	135	80	53	-117	7

平年差

平年比150%以上	平年比50%以下
平年比125%~149%	平年比51%~75%

前年差

+50%以上	-50%以下
+25~49%	-25~-49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「9月の気候」を参照
 平年値は過去30年(1981年~2010年)の平均
 スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2015年10月調査結果（9月実績）
（10月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

10月調査（9月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通し判断ともに判断の分かれ目である50を下回る水準まで低下

9月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-1.7の49.0、見通し判断前月から-1.5の45.7となり、共に判断の分かれ目となる50を割り込む結果となった。

経営動向調査結果では、祝日が一日多い恩恵を受け、売上高DI、収益DI共にプラスを維持している。来客数DIが-7.3とマイナス幅を広げたが、他のDIには前月から大きな変化はみられなかった。依然として生鮮品や食品の仕入原価DIが高止まりし、販売価格DIや客単価DIが高水準で維持されている。

カテゴリ動向結果は非食品カテゴリーを除くカテゴリーでDIはプラスとなった。中旬以降、好天に恵まれ行楽需要が堅調であったことや気温の低下により秋商材の販売が順調となったこともDIのプラス要因と考えられる。生鮮3部門（青果・水産・畜産）では引き続き相場高を背景に好調となっている。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、当月すべてのDIが前月に比べ下落しており、ここ数か月の下落傾向が続いている。見通し判断DIだけでなく、現状判断DIも含めたすべてのDIが判断の分かれ目となる50を下回る水準に低下しており、景況感に減速傾向が顕著にみられるようになってきている。周辺地域景気判断DIも5月をピークに下降トレンドを示している。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

天候や大型連休やプレミアム商品券などの追い風を受けて、経営動向やカテゴリ動向は堅調に推移しているのに対して、景況感の減速は心配な材料である。特に見通し判断DIが弱含みであり、先行き不透明感の今後の動向を注視したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：49.0 (-1.7)
前月：50.7

消費者購買意欲DI
当月：48.6 (-2.4)
前月：51.0

周辺地域 競合状況DI
当月：43.8 (-1.1)
前月：44.9

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：47.8 (-1.3)
前月：49.1

見通し判断

景気判断DI
当月：45.7 (-1.5)
前月：47.2

消費者購買意欲DI
当月：46.5 (-1.7)
前月：48.2

周辺地域 競合状況DI
当月：41.4 (-0.8)
前月：42.2

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：47.4 (-0.2)
前月：47.6

経営動向調査

経営状況

売上高DI
当月：4.7 (+0.5)
前月：4.2

収益DI
当月：2.0 (-0.2)
前月：2.2

販売価格DI
当月：11.6 (-1.0)
前月：12.6

客単価DI
当月：10.8 (+0.3)
前月：10.5

来客数DI
当月：-7.3 (-4.0)
前月：-3.3

生鮮品仕入原価DI
当月：15.5 (-0.9)
前月：16.4

食品仕入原価DI
当月：12.4 (-0.3)
前月：12.7

カテゴリ動向

青果DI
当月：9.7 (-5.1)
前月：14.8

水産DI
当月：2.8 (+4.6)
前月：-1.8

畜産DI
当月：8.7 (+6.7)
前月：2.0

惣菜DI
当月：8.6 (-3.5)
前月：12.1

日配DI
当月：4.1 (+1.6)
前月：2.5

一般食品DI
当月：1.9 (+3.4)
前月：-1.5

非食品DI
当月：-4.7 (+0.9)
前月：-5.6

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

10月調査（9月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

横ばいでの推移も、6ヵ月連続でプラス圏を維持

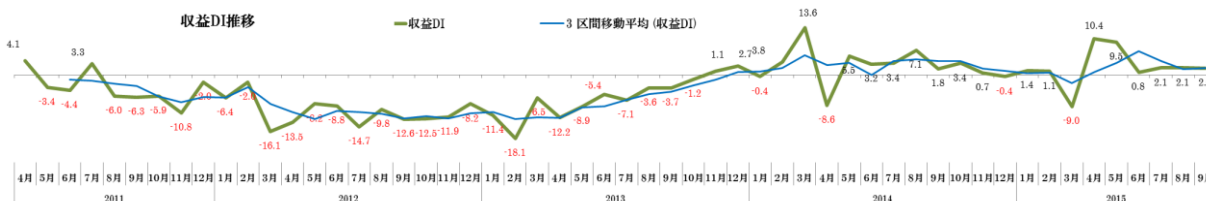
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	3.6	19.6	35.3	39.3	2.2	4.2
売上高（当月）	5.1	18.4	34.2	37.2	5.1	4.7



2. 収益DI

横ばいでの推移も、6ヵ月連続でプラス圏を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	3.7	22.5	38.5	32.1	3.2	2.2
収益（当月）	6.3	18.2	42.7	27.1	5.7	2.0



3. 販売価格DI

やや落ち着きをみせるも6ヵ月連続で二桁のプラス

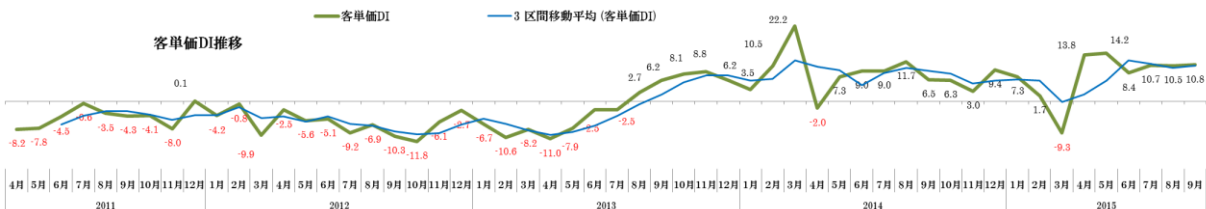
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	3.2	45.0	50.0	1.8	12.6
販売価格（当月）	0.5	4.6	44.8	47.9	2.1	11.6



4. 客単価DI

引き続き高水準を維持し、6ヵ月連続のプラス

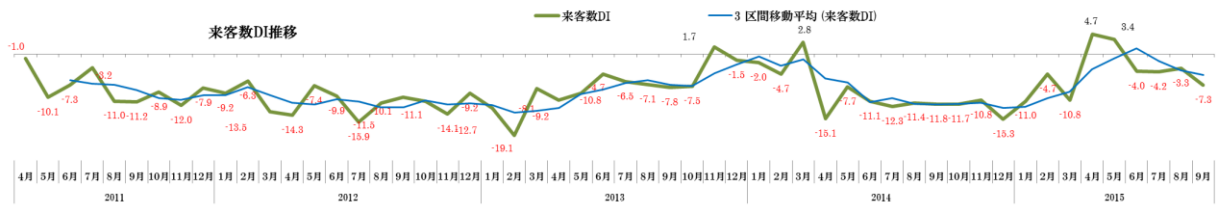
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.4	10.0	36.2	50.2	2.3	10.5
客単価（当月）	0.5	12.4	33.5	50.5	3.1	10.8



5. 来客数 DI

直近やや下落し、4ヵ月連続のマイナス

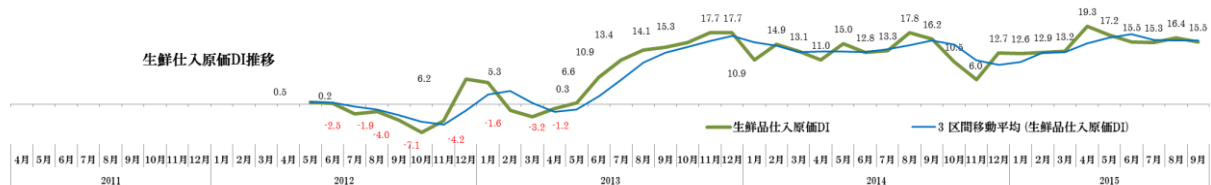
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	6.3	27.9	39.2	25.7	0.9	-3.3
来客数 (当月)	7.7	37.6	32.5	20.6	1.5	-7.3



6. 生鮮仕入原価 DI

相場高により引き続き二桁プラスの高水準

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.5	3.2	34.9	53.2	8.3	16.4
生鮮仕入原価 (当月)	1.6	3.2	31.6	58.9	4.7	15.5



7. 食品仕入原価 DI

やや落ち着きを見せるも、引き続き高水準を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.8	5.0	36.5	53.9	2.7	12.7
食品仕入原価 (当月)	2.1	3.1	40.6	51.6	2.6	12.4

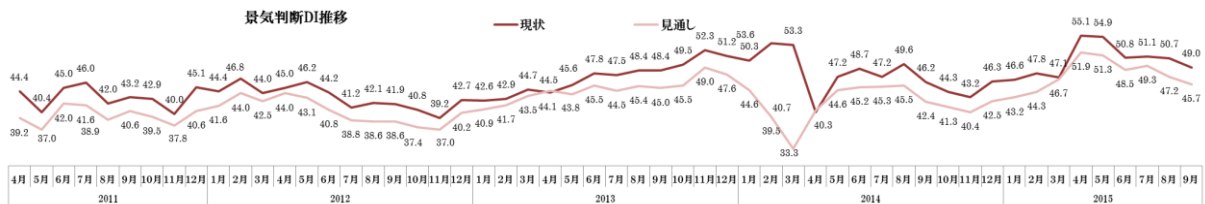


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通し判断共に下降し、共に 50 を割り込む水準に

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	1.4	14.4	64.9	18.9	0.5	50.7
【現状】景気判断 (当月)	1.6	17.6	64.2	16.6	0.0	49.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	2.7	19.3	65.0	12.6	0.4	47.2
【見通し】景気判断 (当月)	1.5	23.7	64.9	9.8	0.0	45.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通し判断共に下降し、共に 50 を割り込む水準に

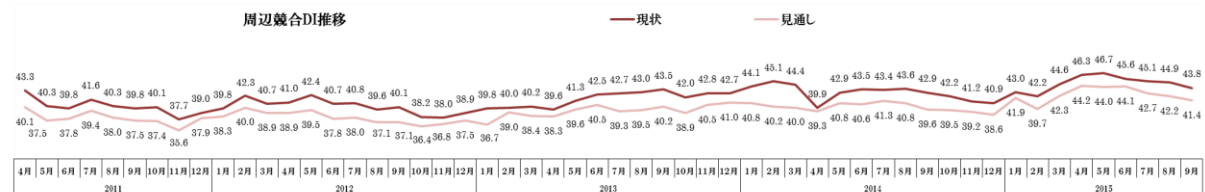
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.4	10.9	70.1	17.6	0.0	51.0
【現状】購買意欲 (当月)	1.6	14.5	72.0	11.9	0.0	48.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.4	14.9	73.4	10.4	0.0	48.2
【見通し】購買意欲 (当月)	1.5	18.0	73.2	7.2	0.0	46.5



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

ゆるやかに下降傾向をたどる

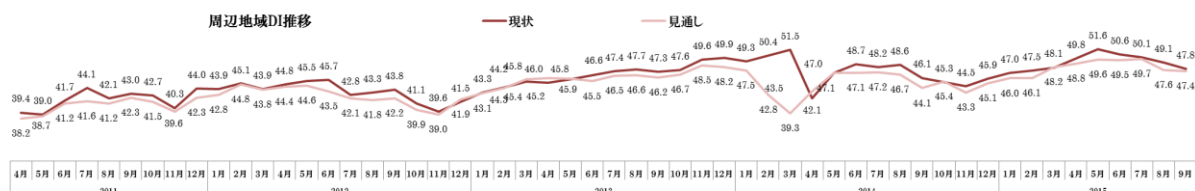
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.6	18.9	72.1	5.0	0.5	44.9
【現状】競合状況 (当月)	3.6	21.2	71.5	3.6	0.0	43.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	7.2	22.0	66.4	4.0	0.4	42.2
【見通し】競合状況 (当月)	5.7	26.8	63.9	3.6	0.0	41.4



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通しともに下降傾向が続き、共に 50 を割り込む

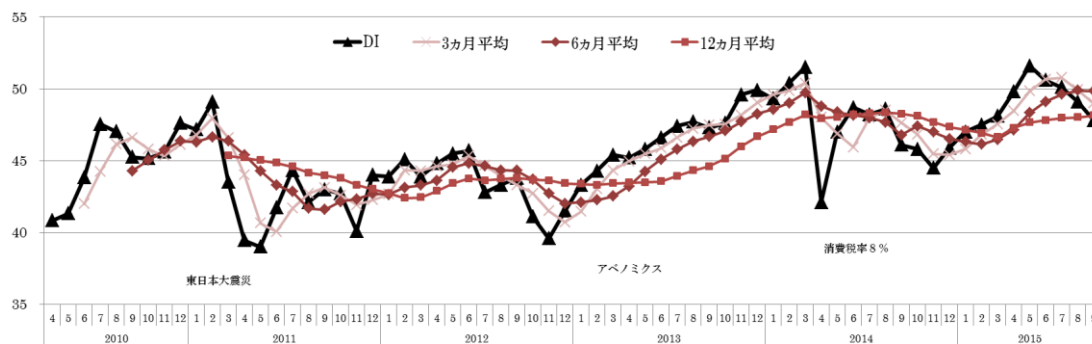
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.0	11.3	81.0	7.7	0.0	49.1
【現状】地域景気(当月)	0.5	11.6	84.2	3.7	0.0	47.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.0	14.5	80.5	5.0	0.0	47.6
【見通し】地域景気(当月)	0.5	13.1	82.7	3.7	0.0	47.4



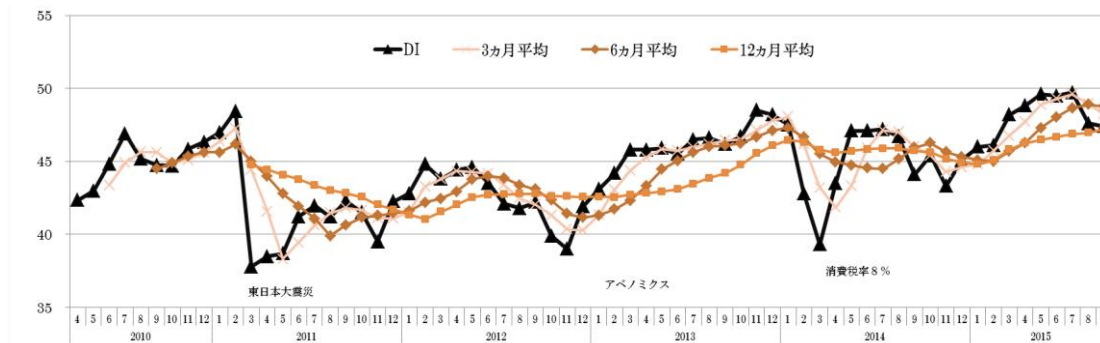
長期傾向 (2010年4月～)

2012年11月以降上昇を一本調子に続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け下落した。その後、5月に持ち直すものの、6月～8月まで横ばい推移、9月～11月では再び下落となった。消費税率引き上げ後、3ヵ月周期でトレンドが変化し、方向感の見えにくい状況であったが、12月以降は6ヵ月連続の改善となり、5月に2010年の調査開始以降で最高水準にまで上昇をみせた。6月以降一転して4ヵ月連続で下落を続けている。12ヵ月平均線は横ばいでの推移を維持しているものの、3ヵ月平均線は下降を示しており、景気判断は弱含みな傾向が顕著になっている。

現状判断 (中長期傾向)



見通し判断 (中長期傾向)



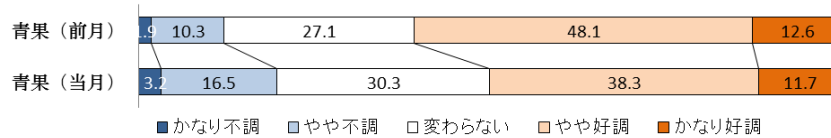
Ⅲ. カテゴリー別動向

カテゴリー別動向 DI による好不調判断

かなり好調：20 以上・好調：10～20・やや好調：0～10

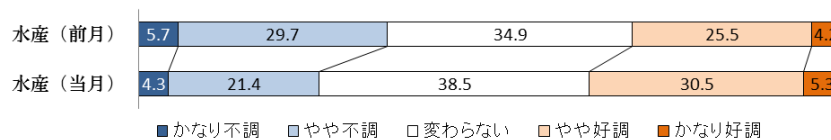
かなり不調：-20 以下・不調：-20～-10・やや不調：-10～0

1. 青果 DI：9.7（やや好調）



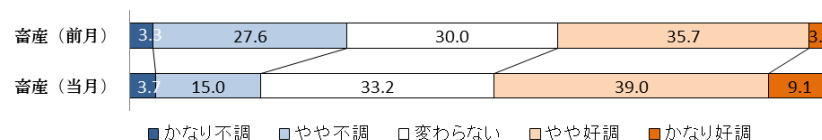
天候不順などにより野菜の相場が高騰しており、単価上昇によりやや好調となった。サラダ、カット野菜や気温の低下で鍋物商材、土物やキノコ類が好調となっている。果実はシャインマスカットやピオーネなどぶどうが好調とするコメントが多かった。梨は気温が低く苦戦した。

2. 水産 DI：2.8（やや好調）



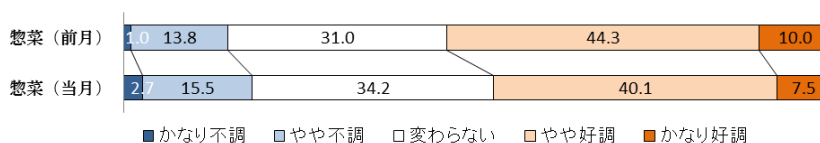
魚種不足や相場高に加え、この時期の主力となるサンマが不漁、小型化により苦戦してとのコメントが多いが、塩干類や刺身類は好調とのコメントが多くやや好調となった。シルバーウィークの売上に追い風になっている。

3. 畜産 DI：8.7（やや好調）



相場高が続き、牛肉の販売が難しい局面が続いていたが、シルバーウィークの行楽需要もありステーキや焼肉用、また気温の低下による鍋物、すき焼き商材が好調となり、カテゴリー全体ではやや好調となった。豚肉は輸入が割安で好調となる一方で、国産はやや不調とするコメントが多かった。

4. 惣菜 DI：8.6（やや好調）



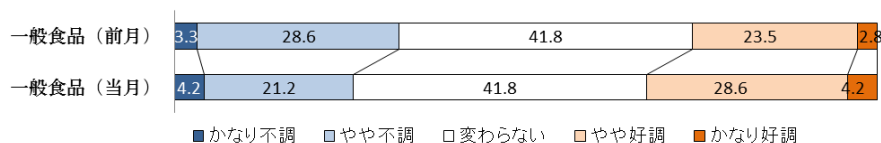
シルバーウィークの行楽需要、運動会シーズンでもあり、オードブル、おはぎがよく売れ、やや好調となった。旬な食材を中心とした取組みや出来立ての提供などの成果がみられた店舗もあった。気温の低下により寿司が不調、人手不足を懸念するコメントもみられた。

5. 日配DI：4.1（やや好調）



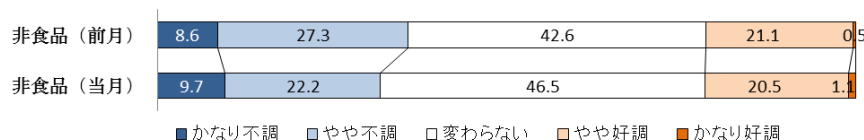
秋の訪れが早くパン類、豆腐や練り製品などの鍋物商材、麺類が好調となった。一方で、アイスなど涼味商材は不調。洋日配やヨーグルトは好調。冷凍食品では、冷凍野菜類がよく売れたとのコメントが目立った。中秋の名月、スーパームーンがあり、月見団子、まんじゅうなども好調だった。

6. 一般食品：1.9（やや好調）



涼しい日が多くなり、飲料が伸び悩んだものの、大型新商品の投入や行楽需要によりビール類が酒類の好調を牽引した。焼肉のたれ、ホットメニューの鍋つゆ、麺なども好調。年々盛り上がるハロウィン商材も展開が前倒しになり、菓子類の売上に貢献。相場安が続く米は引き続き低調、新米の導入に期待が寄せられている。

7. 非食品DI：-4.7（やや不調）



紙皿やコップなど行楽用品の伸びがあったものの、去年のデング熱の反動で殺虫剤などは厳しい。一方、店舗によってはインバウンド需要により雑貨類がよく売れたとのコメントもみられた。

2015年10月調査（9月実績）キーワードTOP3

1. シルバーウィーク（好天に恵まれる、祝日が一日多い）
2. 天候要因（気温低下、上旬は雨多く、中旬以降は好天）
3. プレミアム商品券

スーパーマーケット景気動向調査

9月実績速報版集計 196社

8月実績確報版集計 224社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp